

2015年12月6日「天の父母様を愛するとは心を尽くし、思いを尽くすこと」  
石川祐司教会長

本日は、U-ONE TVの視聴と石川教会長の説教でした。以下に訓読のみ言を掲載いたします。

<訓読のみ言>

『天聖經』

第九篇 家庭教会と氏族的メシヤ 第三章 教会長の道

第六節 カイン・アベルの摂理

アベルの責任

20 カイン・アベルを中心として、最後に行くべきところが血統復帰です。天使長の血統の根を受けたので、真のアダムの血統の根に交換しなければなりません。その根が誤ったのは何のためかという、偽りの愛のためです。サタンの愛、サタンの生命、サタンの血統、ここから根が連結されたので、これを切ってしまうなければならないというのです。

そのためには、神様の愛を中心として、神様の生命と神様の血統を投入しなければなりません。ですから、聖書にも「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ」(マタイ 22・37)とあるのです。心を尽くし、精神を尽くし、思いをつくすというのは何でしょうか。愛をもって、生命とすべての血を投入しなさいということです。精誠を捧げるのは、神様を愛するということです。愛を中心として天を愛するときに、心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くすのが、第一の戒めだということです。サタン世界の血統を防ぐためのものです。これは根本問題です。

21 皆さんは、今まで神様とサタンの戦法を知らずにいました。打たれて復帰してくる道が、アベルの行く道です。サタンは先に打つので、勝ったように見えますが、あとになると自分のもっている善のものまでプラスして返さなければならなくなるのです。悪の側が相手を打って占領したとしても、占領したそれが栄えるのではなく、悪の側にある善のものまで奪われるのです。言い換えれば、神様は餅をついて渡しておき、それを取り戻すときには粉をまぶした餅が戻ってくるのと同じ役事をなさるのです。一時は悪が栄え、善を打つ立場に立ちますが、そうかといって天が減びるのではありません。

22 統一教会の食口は、原理を知っているので、アベルの立場に立っています。そのため、皆さんはまず、サタンに対抗して闘うことができなければならず、サタン世界から自分を分立できなければなりません。これは皆さんが、神様の愛の圏内に入ってこなければならぬことを意味します。しかし、これがすべてではありません。

そのときから皆さんは、神様の悲しみの心情と、サタン世界に縛られている兄弟姉妹の悲しみの心情を解くために、自らを喜んで犠牲にしようとしなければなりません。皆さんの生命、皆さんの犠牲を代価にして、サタン世界から彼らを喜んで救い出そうとしなければならぬ

いのです。アベルが犠牲になることから、復帰摂理は進展するのです。これが、皆さんの覚えるべき公式です。これが、神様の摂理の、一項目なのです。